

遠く離れて

F#m Bm > 7 Bm 7 > F#m

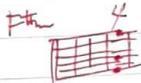
30過ぎたころに しげなく 遠く離れて

ひとり住み慣れた町 赴任したことを思い出す

小さな部屋で 向一つの音なく

埋もれた空間を 湯割り一つで満たす

そのころモバイルもなく



声聞かずに必要なコイン



電話越しの声に

ひとりでないことを知る

そのころの仲間には 同じような人もいた

まだ幼い子を見るため 毎週帰宅していた

朝の光が まだ差し込まない

暗い道 コートの襟を掴んで肩をぬる

そのころモバイルもなく

紙の写真のところに

笑顔で写る家族が

心温める